

# 家政学の母 エレン・H・リチャーズ その著作の初の邦訳書 ユーセニクス

—制御可能な環境の科学—

住田和子・住田良仁訳

**新発売**

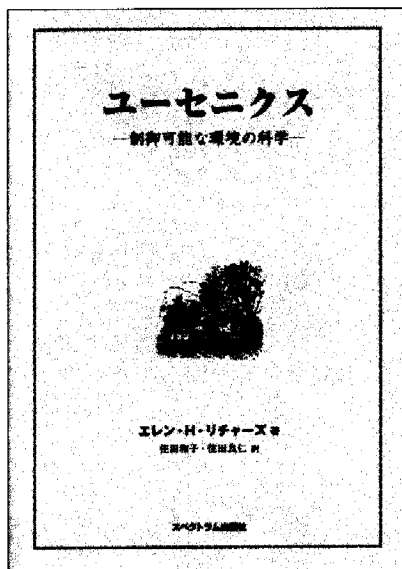
訳者まえがきより (抜粋)

「ユーセニクス Euthenics (優境学)」は、19世紀後半から20世紀にかけて、優生学が人々を魅了し始めていた時代に、環境改善の重要性を訴えた環境教育宣言、と言えるものです。

アメリカ公衆衛生学の先駆者で“家政学の母”とも称される著者エレン・リチャーズ(1842-1911)は、MIT(マサチューセッツ工科大学)の最初の女子学生であり、今から1世紀以上も前に環境教育に生涯を捧げました。彼女は、環境を「一つの総体」として認識、すべての知識の究極的価値は人間の健康と環境に従って決定されなければならない、と考えました。リチャーズは社会的エコロジーを創唱(1892)、科学の在るべき方向を示し、それを人々の日常生活の向上に役立てようと努力しました。それは、農業や殺虫剤による生態系の破壊を警告して、今や環境問題の古典とされるレイチェル・カーソン(1907-1964)の『沈黙の春』(1962)刊行に先んずること70年前の事です。現在、その思想は広くヒューマンエコロジーと呼ばれています。本書は、衛生科学を社会学的見地から発展させた彼女の「環境の学」です。

彼女にとって、科学の大事な目的は、人々を健康で幸福にすることでした。今日、健康維持のために環境をよくする学問を優生学に対応させて優境学と呼んでいますが、当時の科学の世界では、新しい科学を女性が創唱することは考えられない事でした。その後、リチャーズは、ヒューマンエコロジーを、人間が「生命に与える影響に配慮」して、人間の環境、とりわけ身近な生活環境を研究する学問、と規定しています。(中略)

リチャーズの信条は「簡素」を旨とし、増収よりも賢明な消費に注目、最終的には精神の管理をめざしました。彼女は健全な家庭の営みを通して、間接的に社会を浄化、あるいは進歩向上させようと願っていたのです。それゆえ、ユーセニクスが家庭科固有の教科理論とみなされる所以でもありましょう。彼女の「制御可能な環境の科学」とは倫理性に源泉を置くものです。



A5判 160ページ 並製  
定価 2310円(本体2200円)

詳細は以下のホームページで

[www.spectpub.com](http://www.spectpub.com)

**スペクトラム出版社** 〒120-0006 東京都足立区谷中2-7-13 **電話 03-5682-7169**

●書店ではお求めになれません。直接、ファックスや電話でご注文ください。

<b>注文書</b>	<b>スペクトラム出版社 御中</b>		代金引換え宅配便により、下記の書籍を注文いたします。	
	<b>ユーセニクス</b>	税込定価 2310円	冊	注文者ご芳名
	※ ご注文1冊の場合は、ご注文者が送料の一部190円をご負担(合計2500円)、2冊以上は送料無料。			
	注文者ご住所 〒		電話	
配達希望日時 月 日 (		) <b>ファックス 03-5682-7157</b>		